

# 千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1  
公益社団法人千葉県園芸協会  
連絡先 043(223)3005  
発行日 毎月1日  
令和8年3月号

## 輸出の“わからない”を解決！はじめの一步をサポート ～輸出スタートアップ事業について～

千葉県農林水産部販売輸出戦略課  
輸出支援室 技師 黒瀬 奎吾

千葉県では、農林水産物の輸出経験がない方や初心者の方に向けて、研修会や専門家による伴走支援を行う「千葉県輸出スタートアップ事業者向けサポート事業（以下、「輸出スタートアップ事業」という）」を実施しています。

### 1. はじめに (輸出に取り組む意義とは)

国内では人口減少が進み、食の市場規模は今後縮小することが予想されています。一方、海外では人口増加や日本食への関心が高まり、農林水産物・食品の輸出額も年々過去最高を更新しています。令和7年の農産物の輸出額が初めて1兆円を超える見込みで、海外市場への販路拡大は大きなチャンスと言えます。

輸出は新たな販路の開拓による経営の成長や安定化だけではなく、海外規制への対応を通じて品質向上につながるほか、従業員のモチベーションアップなどが期待されます。

海外バイヤー等による商品評価会を実施し、パッケージや味などに対し海外や輸出目線の評価をフィードバックすることで、商品開発に役立てていただきます。



在日外国人による商品評価会の様子

### 2. 輸出スタートアップ事業について

#### ア) 事業の背景

千葉県では、県産農林水産物の輸出を促進するため、「千葉県農林水産物輸出活性化取組方針」を策定し、生産・流通・販売の各段階での支援に取り組んでいます。

一方で、輸出には衛生基準や園地登録など国・地域ごとに異なる対応・確認が必要であり、輸出による経営面の影響や具体的な事例の理解も必要となるため、輸出に取り組む生産者はまだ限られています。

そこで、県では令和6年度より、輸出未経験者や初心者の方の生産者等を対象に、輸出の基礎知識を学ぶ研修会と、専門家による実践的な伴走支援の二段階でサポートする「輸出スタートアップ事業」を行っています。

#### イ) フェーズ1 (基礎研修会)

輸出の意義、物流の基礎、ブランド力向上、先進事例などを学べる研修会を開催します。令和7年度は、県の輸出ポテンシャル品目である梨、さつまいも、メロンの輸出先進事例紹介を行いました。また、在日外国人や

#### ウ) フェーズ2 (専門家による伴走支援)

さらに実践的に取り組みたい方には、輸出専門家が個別に伴走支援します。輸出戦略の策定や海外バイヤー等との商談会、輸出手続きの支援等を行います。実際に、未経験から海外への輸出を始めた方もおり、「輸出の『ゆ』の字もわからず不安だったが、専門家の支援で一歩ずつ進めた。」といった声もありました。また、参加者同士の交流による新たな取引につながった例もあります。

### 3. おわりに

今回御紹介した輸出スタートアップ事業は、研修会へのみの参加も可能です。また、輸出関連活動や機械導入に活用できる補助金もありますので、少しでも興味のある方は是非御検討ください。県では今後も輸出に取り組む生産者の皆様に支援し、県産農林水産物の更なる輸出促進を図ってまいります。



## 高温対策技術を中心とした 千葉県トマト協議会の取組について

公益社団法人千葉県園芸協会  
産地振興部 主査 吉田 伊織

(公社)千葉県園芸協会では、県や全農千葉県本部、関係JA等をメンバーとして千葉県トマト協議会を設置し、産地の共通課題に取り組んでいます。今回は、高温対策技術を中心とした、増収に向けた取組を紹介します。

### 1. はじめに

千葉県のトマトは夏の一時期を除き、ほぼ周年出荷されています。しかし、近年、異常高温・黄化葉巻病などの要因により、特に主力の春及び抑制作では出荷量が減少傾向にあることから、本協議会では実効性の高い生産対策技術の確立による増収を図るため、以下の取組を実施しました。

### 2. 令和7年度の取組内容

まず、関係機関を参集して生産対策検討会を開催し、各産地の状況、今年度の生産対策試験等について情報交換を行うとともに、①高温対策事例のとりまとめ、②コナジラミ類による黄化葉巻病対策の方向性について協議しました。

#### (1) 高温対策実証ほの設置による地域モデルの育成

高温下では、ハウス内の環境要因となる換気・遮熱・冷却と草勢の維持・コントロールのための灌水等の組合せが重要であることから、各対策の組合せによる実証ほを各産地に設置しました。

#### (2) コナジラミ類の保毒虫調査の実施

コナジラミ類の防除指導の一環として、関係機関と連携して定植前の野外に生息しているコナジラミ類がどの程度の確率で問題ウイルスを保毒しているのかをエリア毎に明らかにし、関係機関と共有しました。

#### (3) 高温対策事例集の作成

(1)にて設置した、実証ほ及びちばの園芸高温対策緊急支援事業を活用した生産者の事例等を収集し、高温対策事例集を作成しました。事例集については、関係機関と共有を図り、各地域での普及導入を推進します。

#### (4) 研修会等の開催支援

黄化葉巻病対策及び総合防除の再周知として、越冬作を中心とした施設園芸での微小害虫・ウイルス病対策研修会を開催しました。研修内容については、オンデマンド配信もしており、各産地での講習会にも活用いただいております。

【動画URL】※令和8年7月まで配信予定

<https://youtu.be/DPkeOe31DXQ>



現地検討会の様子



研修会の様子

### 3. 取組結果と今後について

上記の取組により、令和6年度対比で7年度は抑制トマトの反収増加につながりました。今後、更なる反収増加に向けて、病害虫対策と高温対策を組み合わせた栽培技術の再構築及び高温下での前作を考慮した肥培管理も課題となっております。

千葉県トマト協議会では、県産トマトの増収に向けた取組を関係機関と連携して実施していきます。



## 千葉の美味しいイチゴを支える新たな担い手 — 県域での交流で次のステップへ！ —

千葉県農林水産部担い手支援課 専門普及指導室  
主任上席普及指導員 木村 美紀

県内では新規就農者や既存経営体の新規部門として、イチゴの栽培を始める生産者が増えています。そこで、各地域と連携した県域の研修会を開催し、新規生産者の学びと交流によるスキルアップを支援しました。

### 1. 千葉のイチゴを支える新たな担い手

近年、県内では新規就農者が経営品目としてイチゴを選択する、あるいは既存経営体や企業が新規部門としてイチゴ栽培を開始するなど、新規のイチゴ生産者が増えています。

一方で、イチゴは栽培技術の複雑さや近年の高温化、資材の高騰などにより、経営の安定化に向けて早急に技術力を高めることが求められています。

そのような中、各地域では農業事務所を中心に関係機関と連携し、スピーディな技術習得や新規生産者同士の交流、地域の先輩生産者とのつながりを育てる等の活動を行い、自主的なグループ活動や地域とのつながりができ始めています。

### 2. 1st ステップ「出会ってみよう」

各地域での交流が進む中で、関係者では「これだけイチゴに熱い思いのある新規生産者が県内にたくさんいるんだったら、お互いに出会うことで新たな化学反応が起こるのでは!？」と考え、千葉県いちご組合連合会と県が連携し、令和6年6月に初めて『いちご新規生産者意見交換会—千葉いちごミーティング』を開催しました。県下から新規生産者約50名が参加し、生産者の事例発表やいちご組合連合会の先輩生産者からのイチゴ経営の経験談を伺いました。参加者からは、「先輩にたくさん悩みを聞いてもらえた」、「毎年開催して欲しい」、「次は視察がしたい」という意見が多く聞かれました。

### 3. 2nd ステップ「イチゴを語る」

第1回目で好評であった少人数での意見交換と視察を組み合わせ、第2回目となる研修会『いちご新規生産者交流会 in 成東—イチゴを語る1日—』を、令和7年11月に成東観光苺組合の御協力により成東にて開催しました。地域全体でイチゴ観光を盛り上げる産地での組織運営や若手組合員の「自分に

合う技術の見つけ方」を、視察を交えて学びました。その後の意見交換会では満員の会場で、イチゴ一色のフリートークが時間一杯繰り広げられ、参加者のイチゴへの熱意に圧倒されました。



写真 『いちご新規生産者交流会 in 成東』の様子

### 4. 3rd ステップ「競い、学び合う」

3rd ステップとして、「自分のイチゴのおいしさを学び、イチゴのおいしさをお客様へどう伝えるか」を学ぶことを目的に1月に『いちごのおいしさ研修会』を開催しました。

新規生産者が自分のイチゴを持ち寄り、仲間のイチゴ約35品を試食しました。「他人のイチゴをこんなにしっかり食べたのは初めて」や「自分のイチゴはまだまだだと思った」、「作ってみたい品種に出会えた」等、まさに最高の旬を迎えたイチゴを、五感をフルに使って感じる貴重な時間となりました。

### 5. まとめ — イチゴが熱い!!

研修会を重ねるごとに、生産者のイチゴへの熱い思いとイチゴ経営への挑戦やその多様性を関係者で共有しています。研修会は1日という短い時間ではありますが、その場に新規生産者が集い出会うこと、熱量がぶつかることで、こちらの想像を超えた化学反応が生まれていると感じています。

千葉の美味しいイチゴを支える新たな担い手として、これからも関係者一同熱くサポートします!



## ネギ黒腐菌核病に対するセル苗灌注処理の被害抑制効果低下の要因とその対策

千葉県農林総合研究センター 病理昆虫研究室  
主任上席研究員 横山 とも子

ネギ黒腐菌核病に対してパレード 20 フロアブルの苗灌注処理は卓効を示しますが、大量の降雨等により被害が抑えきれない場合があります。このような場合、モンガリット粒剤を追加処理することで被害の発生を抑えることができます。

### 1. はじめに

ネギ黒腐菌核病は、土壌伝染性の病害で、感染すると、最初に葉先枯れが起こり、株全体が生育不良となり、やがて枯死します。軟白部に大量の菌核がかさぶた状に形成され(写真1)、これが主な伝染源となります。菌核は、土壌中に長期間生存するため、防除が難しくなります。パレード20フロアブル(以下パレード)の定植時の苗灌注処理は、難防除である本病に対して非常に効果が高く、収穫時期まで効果が持続するため、最も有効な対策技術として生産現場で広く普及しています。

一方、継続的に試験を行う中で、被害を十分抑えることができない年もあり、大量の降雨(写真2)との関係が示唆されました。そこで、大量の降雨によりパレードの苗灌注処理を行っても大きな被害が発生する現象を確認するとともに、その対策として、追加で生育期に処理できる薬剤について検討したので紹介します。

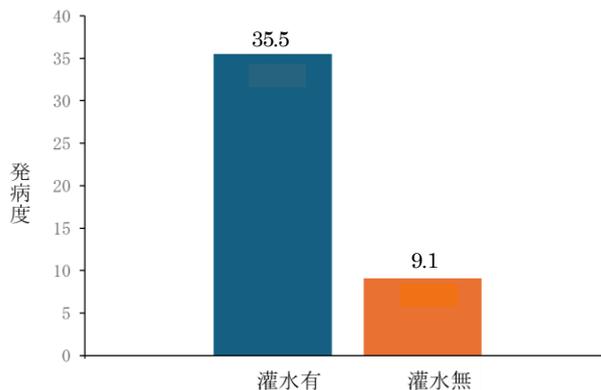


図1 大量灌水の有無によるパレード20フロアブル苗灌注処理の防除効果

軟白部及び茎盤部における本病被害の程度を以下の指数のとおり設定し、目視により調査した 0:発病なし、1:茎盤部にわずかな褐変があるが出荷可能、2:根が腐敗もしくは茎盤部に菌核を形成、3:軟白部が腐敗もしくは菌核形成  
発病度 $=[\sum(\text{程度別発病株数} \times \text{指数})] \div (3 \times \text{調査株数}) \times 100$



写真1 発病株の様子



写真2 冠水したネギほ場

### 2. 被害抑制効果低下と大量降雨との関係

パレードのセル苗灌注処理を行った苗を定植した枠ほ場に、雨量 600 mm相当の灌水(写真2の降水量と同程度)を行った結果、灌水なし区に比べ灌水あり区で発病度が高くなり、大量の降雨によりパレードのセル苗灌注処理を行っても被害が発生する現象が再現できました(図1)。一方、灌水処理を行っても、ネギ体内における農薬の有効成分濃度は低下せず、効果の低下要因は、ネギは湿害に弱いことから、灌水により根が傷み、病気に対する感受性が高まったこと等が考えられました。

### 3. 大量降雨後の対策

大量の降雨によりパレードの処理単独では対策が不十分である場合、生育期に薬剤を追加で処理する必要があります。パレードはSDHI剤という系統の薬剤で、耐性菌の発生リスクが中～高となっているため、追加で処理する薬剤は別系統であることが望まれます。枠ほ場で灌水処理を行なった後に、SDHI剤以外で本病に対して効果が高かったモンガリット粒剤(DMI剤)を追加で処理した結果、苗灌注処理のみの区に比べ可販株率が高くなりました(表1)。大量の降雨があり、パレードの苗灌注処理を行っても被害の発生が見込まれる場合、追加でモンガリット粒剤を処理することで、耐性菌発生リスクの低い有効な防除対策となります。

表1 灌水条件下におけるパレード苗灌注処理とモンガリット粒剤処理の組み合わせによる防除効果

薬剤処理	可販株率 (%)
パレード苗灌注	61.3
パレード苗灌注+モンガリット粒剤	70.9
無処理	9.6



## ビワの産地維持に向けた取組について

千葉県農林水産部生産振興課 園芸振興室

千葉県では、びわ栽培における労働生産性向上や規模拡大による産地の維持を図るため、令和5年度より「特産果樹産地振興事業」により、平坦地での簡易雨よけ栽培の実証を行うとともに、新たな出荷体制整備に向けた実証に取り組みました。

### 1. 背景・ねらい

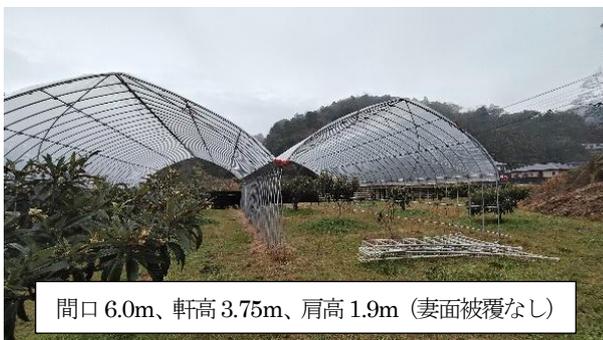
千葉県のびわは安房地域を中心に栽培されていますが、高齢化や労働力不足などにより生産面積が減少している中、びわ栽培における労働生産性向上や規模拡大による産地の維持を図るためには、作業効率の悪い傾斜地での栽培や、経験や労力を要し、作業時期が集中する選別・箱詰めをはじめとする出荷調製作業の負担が、規模拡大の制限要因となっています。

そこで、令和5年から令和7年にかけて平坦地での簡易雨よけ栽培モデル実証及び、出荷調製作業の効率化に向けた新たな共同選果・販売体制の事例調査やモデル実証を行いました。

### 2. びわの簡易雨よけ栽培モデル実証結果について

作業効率の良い平坦地での栽培を拡大するためには、比較的温暖な安房地域においても平坦地での露地栽培は寒害を被る危険が高く、また、施設を設置する場合、既存の大型鉄骨ハウスの導入コストが課題となっています。

そこで、南房総市において比較的安価なパイプハウスで、寒害を受ける危険性の高い冬季のみ被覆を行う栽培方法を試験しました。調査は平坦地ハウス区、平坦地露地区、急傾斜露地区の3区で行いました。



間口 6.0m、軒高 3.75m、肩高 1.9m (妻面被覆なし)

簡易雨よけハウス

調査の結果、作業時間については、摘房・摘蕾は急傾斜地に比べ平坦地で短くなりました。調査がなかった作業についても、平坦地で作業効率が向上するとともに、軽労化につながるものと想定されます。寒害の影響は、平坦地露地区で大きく、平坦地ハウス区・急傾斜地露地区では小さいという結果でした。

これらの結果から、平坦地でのハウス栽培は、急傾斜地の露地栽培と比較して、作業効率の向上が見込まれ、寒害の程度も同程度となることから、経済栽培も可能となることが見込まれます。

### 3. びわの新しい出荷体制実証結果について

出荷調製作業の効率化に向け、出荷調製作業を共同化する共選体制モデル実証を行いました。

実証の結果、選果作業については、びわの基本的な知識があれば、初心者でも可能であることが明らかになったほか、それ以外の調製作業について、未経験者を雇用した場合でも、事前指導等により市場出荷品と比較して問題ないレベルで出荷できることが分かりました。

経営的には、出荷調整作業に係る人件費等を差し引いても、黒字が見込めることが示されました。また、果実サイズが大きくなるほど、出荷箱等の資材経費は高くなるものの、生産者の収益も高くなりました。



共選体制のモデル実証

### 4. 今後の活動について

今後は、簡易雨よけ栽培の導入に向けて、必要な灌水設備の導入費と雨よけ施設を含めた経営試算、共選体制の構築に向けては、出荷を管理する人員の確保や出荷方法、精算方法など、今後 JA・生産者団体を含めて検討するとともに、この共選体制において、調整作業が簡易で需要が見込まれる少量パック規格の導入の実証 など、更なる出荷調製作業の省力化及び外部化の推進と販路の確保に向けた取組を進めます。

催物結果



## 第8回房総ジビエコンテスト開催結果

千葉県農林水産部農地・農村振興課

千葉県では、野生鳥獣対策の一環として、県内で捕獲され、県内の食肉処理加工施設で適切に処理・加工されたイノシシやシカの肉を「房総ジビエ」と銘打ち、消費拡大を図っており、取組の1つとして「房総ジビエコンテスト」を毎年度開催しています。

今年度は、「食べてまもろう、ちばの里山」をコンセプトに「房総ジビエ」を使用した加工食品コンテストを開催しました。

書類審査には16作品の応募があり、5作品が優秀作品として、実食審査に進出しました。

実食審査は、令和8年2月1日に実施され、次のとおり最優秀作品及び優秀作品が決定しました。

### 最優秀賞（千葉県知事賞）



作品名：猪バックリブのピリヤニ

店名：地産地消 cafe&bar Cluster (柏市)

氏名：日暮 尚也

### 優秀賞（千葉県農林水産部長賞）



作品名：千葉県産小麦粉とどんぐり粉の

もちもち涼皮 イノシシ広東叉焼のせ

店名：中国料理 kujikuj (佐倉市)

氏名：久慈 源一郎

「房総ジビエ」にご興味をお持ちいただけましたら、次のページで「房総ジビエ料理」を通年で提供する店舗を紹介していますので、御参照ください。  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/ryuhan/pbmgn/norin/torikumi/bosogibier/gibierlist.html>

催物結果

## 第46回千葉県フラワーフェスティバル花き共進会結果報告

千葉県農林水産部生産振興課 園芸振興室

令和8年1月15日に行われた第46回フラワーフェスティバル花き共進会の審査結果は次のとおりです。

○出品点数 337点 (鉢花及び観葉 69点、洋らん 54点、切花1部 122点、切花2部 92点)

○入賞 82点 (特別賞 30点、金賞 52点)

○主な特別賞受賞者

賞名	品目	受賞者	市町村
農林水産大臣賞	ファレノブシス	加藤 英世	南房総市
千葉県知事賞	カーネーション	岡本 祥明	南房総市
千葉県議会議長賞	プリムラ	市原 勝吉	千葉市
農林水産省農産局長賞	ストック	鈴木 啓之	館山市
農林水産省関東農政局長賞	ハラン	川名 嘉男	南房総市
千葉県農業協同組合中央会長賞	ファレノブシス	柳井 進	袖ヶ浦市
NHK千葉放送局長賞	オリエンタルユリ	太田 喜明	館山市
(公社)千葉県園芸協会会長賞	シクラメン	菅谷 政行	旭市
千葉県花き園芸組合連合会長賞	ハラン	木村 隆	南房総市



農林水産大臣賞 ファレノブシス「アンティーク」

品種名のイメージどおり、少し赤みを帯びた淡いブラウンがとても美しい色合いで、輪数も多く花の品質も素晴らしいです。飾るのが嬉しくなる、そんな新しいファレノブシスです。